

実習の感想

首都医校

理学療法学科2年 H.M

この度は二週間における検査・測定実習という機会を設けていただき、本当にありがとうございました。主に4人の理学療法士の先生方が丁寧に指導して下さい、大変勉強になる二週間でした。今回の実習を行う上での目標として、実際の現場で行われているリハビリを見ていく中で「先生方が何をどのように考えてそのリハビリを行っているのか」少しでも理解出来るようになるということを目指していました。今回、先生方のリハビリの進め方を見ていく中で、1人20分程度という短い時間にも関わらず、あまりにも多くの事がなされていて非常に驚きました。大まかな手順としては、初めに患者様の具体的な症状を聞き、その症状の原因をいくつか頭の中で仮説として考える。そこからさらに、本当にその仮説が合っているのかどうかを視診や触診、動作観察、整形外科テスト、ROM、MMT、バランス検査など挙げ出したらきりが無いほど多くの選択肢から適切だと思うものを自分で選択し、評価していく。評価した上で仮説が間違っていた場合、原因が特定できるまで何度でも繰り返す。評価した上でその仮説が合っていると推察できる段階に至って初めて、それに応じたリハビリプランを立てていく事ができる。さらにこの後にも、立案したリハビリプランを実地した結果どのように症状が変化したのか再評価し、次回は何が課題で、それをどうやって改善していくのかなど、本当に信じられないほど多くの手順を先生方は患者様1人1人の症状に合わせてなされているのだという事が多少なりとも理解できました。

このような膨大な手順を自分1人で行い、患者様の症状を改善していくためにはまず解剖学、運動学、生理学の基礎知識が何よりも大事になってくるのだと切に感じました。それらのリハビリを進めていく上での土台をある程度理解することが出来てからが、ある意味本当の勉強の始まりなのではないかと思いました。そのため、今から如何に基礎を固めていくことができるのかが非常に重要となってくるため、まずはそこから頑張って勉強していきたいと思います。そして、いつか上溝整形外科リハビリクリニックの素晴らしい先生方に並べるような理学療法士になれるよう日々精進していきたいと思います。

最後になりますが、この二週間至らぬ点多い中、非常にたくさんの知識や技術を丁寧に指導いただいた工藤先生、今井先生、町田先生、相川先生本当にありがとうございました。

今年の検査測定実習は、上溝整形外科リハビリクリニックで学ばせて頂いた。実習初日は集合時間の30分前についてしまい、かなり緊張していた。自分が学んできたことは、実際の患者様に通用するのか不安でいっぱいであった。初日は実際の職場の空気にふれ、気合が入る1日となった。理学療法士の先生方はどなたも、丁寧に疾患やどの目的で介入しているかを自分に指導してくれて、すんなりと吸収することができた。

実際に触診やROMを測った際に、クリニックに受診する患者様は皆私服だということに気が付いた。去年の見学実習では総合病院で行ったが、その際は入院している患者様がほとんどであったため、ユニホームが統一されていた。ましてや、学校での実技練習では皆触診しやすい服装でいた。この結果から、自分は思うように触診することができなかった。また、患者様によっては変形もみられるため、かなり難しいと感じた。ROMに関しては、変形性膝関節症の患者様の膝の屈伸の可動域を測る際に、学生同士で行う時よりもやはり制限があったためとても貴重な経験になったと感じた。実際の患者様で感じる制限やend feelは、学校ではけして学ぶことのできないことだ。

今回の実習で、これからの実習で大切にしようと思ったことがある。それは、「問診」である。「問診」は患者様の不具合を適切に良い方向にもっていくためにとっても重要であるということだ。この問診一つで治療の方向性が変わってくる。そのため、いつごろから、どこが、どのように、どの動きで、安静時でも痛むかなど、できるだけ細かく聴取する必要がある。そのあとから、視診、触診から解剖学的に、姿勢観察、動作観察から運動力学的に観察する。その次にストレステストを行い、痛みの再現性を確かめたうえで、原因がどの組織なのかを見極める必要がある。先生方はこの一連の流れを素早く行っており、理学療法士のすごさを痛感した。

今の自分には経験が圧倒的に足りないと改めて認識する機会になった。この2週間かなり知識も増え、何より患者様への接し方や関係の構築など、学校では学ぶことができないことがあった。同時に、自分の知識量の少なさも再認識し、今後どのように何をすべきなのかより明確になった。学校で学べる知識は臨床に出る前の基礎であるということをお忘れずに、学校でもしっかりと勉強に励もうと思う。

2003年1/23~2/4
首都医校 理学療法学科 二年
K.H

臨床実習：上溝整形外科リハビリクリニック

初めての臨床実習で緊張していたが、先生方が質問しやすい環境を作ってください、質問に対して丁寧に教えてください充実した臨床実習を送ることができました。初めて患者様を相手に見学や実習を行いました。大学では健常者相手に行っていたので患者様相手に比較をすることが難しかったです。クリニックなので患者様の対応人数も多く様々な疾患、患者様を見ることができて経験がない私にとって貴重な時間でした。教科書で学ぶことしかしてこなかったのが、実際患者様を見ると関節の可動性や筋のスパズムをみて何が原因かどういったリハビリを行えば患者様の回復に持っていけるの自分で考えて実施すべきか考えることが難しかったです。同じ疾患でも症状が異なったり、目的が異なるので患者様に合った治療を行わなければならない、私も今回の実習やこれからの実習で考えられるようになりたいです。先生方と患者様との間に信頼が見られ患者様も笑顔でリハビリを行っていて信頼を築くことの大切さを改めて理解することができました。初日と今では知識量も技術も高まり理学療法士としてレベルアップできたのではないかと思います。初めての実習地が上溝整形外科リハビリクリニックでよかったですと強く思いました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

実習期間：1/23～2/3 文京学院大学 K.S

総合臨床実習Ⅱの感想文

文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科 4年 D.T

本実習では、私は初めてとなるクリニックでの実習を行わせていただくことができました。今まで私は総合病院での実習が続き、本当に様々な疾患を持つ患者様について勉強してまいりました。しかし本実習では整形外科疾患のみに対する理学療法をクリニックという施設で学ぶことができました。

私が感じた総合病院とクリニックの違いは、一日で診る患者様の数の多さです。クリニックでは一日に数十人と担当することがありました。また最も相違を感じた点は、クリニックでは毎日来院する患者様は一切いらっしゃらないため、一回の理学療法で結果を出す必要があることです。病院では一人の患者様を退院まで毎日診ることができますが、クリニックではさらに患者様が次来院されるのは来週ということも往々にしてあるため、一回で行える理学療法の質や精度が求められると感じました。

そのためクリニックでは短時間で正確な評価と治療を並行して行う必要があります。私はこの1ヶ月半の間、トップダウン的評価とより臨床で行われている理学療法の考え方、そしてより実践的な理学療法の実技を現場で学ばせていただきました。そこで必要である基礎知識や評価によって得られた情報の解釈を先生方の指導のもと、自分のものにしていきました。足りない知識も先生方のアドバイスによってより深いものとなり、症例を考える上でヒントとなることができました。情報を考えることに限りはなく、得られた評価からまた一つまたひとつと患者様について多角的に考えることができました。

しかし情報や知識を得る前に必要なことは、一医療従事者としての態度です。どの施設でも言えることではありますが、やはり一番求められることは人との接し方です。本実習に於いても、患者様との関係性や信頼関係、延いては理学療法士先生方、スタッフの皆様との信頼関係は必須事項であります。私はそういった人間関係に対しても真摯に向き合い、今まで出来ていなかった礼儀態度を改め人間として一つ成長することにも実習期間中に努力しました。

至らぬ点が多く、それでも実習を続けさせていただけたご厚意に対して、私は感謝の気持ちしかありません。丁寧に指導を行っていただいた理学療法士先生方には本当にお世話になりました。また拙いながらも体を預けて下さいました患者様方々にも感謝申し上げます。実習開始時より少しは成長できたのではないかと感じます。

この経験を活かして来年、一人の理学療法士として胸を張って言える人間を目指して努力していきたいです。最初の実習でこの施設に来たかったと本気で思っています。そのくらい本実習では勉強と成長ができたと思っています。最後に、6週間と長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

1月16日から21日までお世話になり、上溝整形外科リハビリクリニックさんで貴重な時間を過ごせました。

初めて整形外科としての理学療法士の仕事を拝見し、患者さんひとりひとり違った理学療法を見学させてもらい、教科書や授業では学べない、現場での理学療法を学びました。

先生たちの理学療法を拝見させていただく間に伸展制限の患者さん、実際に可動域を動かすにあたり注意点や正しい計測の仕方について学びました。

理学療法士の先生やそれに携わる先生たちの手厚いサポートもあり、楽しく学ぶことができました。自分は将来、病院で働くことになるのではないかと考えていましたが、先生たちの話や仕事を見学していると、自分の目指す理学療法士になれるのではないかと思いました。

一週間という短い時間でしたが、ご教授頂きありがとうございました。

臨床実習感想文

首都医校 理学療法学科 4年 Y

今回の臨床実習では、運動器の疾患の痛みに向き合う理学療法について深く学ぶことができました。学校では学ぶことのできない実際の患者様の筋肉の性質や炎症症状に触れ感じることができとても貴重な体験をさせていただきました。患者様と向き合う姿勢を学び、解剖学の大切さを再度認識し、理学療法士という職業についてあらためて魅力を感じることでできた実習となりました。

7週間の実習の中で、何度も見学に入らせていただけた患者様も多く、患者様の経過をみることもできました。その中で、とても印象に残っていることは、理学療法士の先生が患者様の毎回変わる訴えに対して、継続的な視点と新たな視点と2つの視点から患者様に向き合い評価と治療を行っていることでした。多くの患者様が訴える痛みに対して、どこの組織が原因でなぜ問題が起きているのか、いくつもの選択肢や推測をして患者様に負担が少ない体勢で迅速に鑑別をし、再評価と治療を15分という少ない時間の中で行っていました。また、空いた時間があれば先生同士で実技の練習を行い、書籍などで勉強している姿がとても印象的でした。患者様に対しては勿論のこと、学生に対しても疑問点について複数の可能性や予後予測など説明をしてくださ